

## 金曜コラム - 外部の視線で見た体育人権 ソウル市野球ソフトボール協会専務理事 羅ジンギョン

論語の一編に、歳寒然後 知松柏之後彫也という言葉がある。

季節が寒くなった後でこそ、松と五葉松の緑を知ることができる。

吹雪に打たれてこそ、松と五葉松が枯れないことを知ることになるという意味である。

安重根義士が旅順監獄で残した文としても有名になった言葉だ。

(訳注：歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る としさむくして、しかるのちにしょうはくのしぼむにおくるるをしるなり 要旨：危難の時にはじめて人の真価がわかるものである。 口語訳：気候が寒くなってから、はじめて松や柏が枯れないで残ることがわかる)

(訳注：安重根 アン・ジュングン 大韓帝国時代の朝鮮独立運動家、1909年10月26日に前韓国統監の伊藤博文を北満州のハルビン駅構内で襲撃し、1910年3月26日に処刑された。)

寒い冬吹雪のような不毛なスポーツ環境の中でも緑を見せてくれた松のようにスポーツ文化研究所がいつのまにか所期の成果を収めている。

韓国スポーツ界の数少ない市民団体という使命感を持って発足し、過去数年間成長してきたスポーツ文化研究所の歴史はこれから韓国スポーツ界をもう一度バリューアップさせる貴重な資産になると確信し、いくつかの提言をしたい。

最近起こっているスポーツ界の慢性的な不正と悪習の反復的な発生は、私たち体育界が持っている「教育」の度外視と深い関連がある。

過去数十年間、野球界をはじめとする韓国スポーツ界は徹底した成果中心の国家体育政策によって、所期の成果を収めれば全てが許される非道徳的なことが根強く繰り返されてきた。

その結果、体育人は知・徳・体の調和のとれた人格涵養を備えたスポーツ人とは距離が遠い、結果の為には手段と方法を選ばない部類だと罵倒されることになったのも事実だ。

これは実際、野球だけではなく韓国のスポーツ全体の問題、さらに韓国社会全般の問題でもある。

過去数十年間スポーツ界をリードしてきた大韓体育会の無能を端的に示すもの。

事実、体育特技者という国家政策によって子供の頃から野球やスポーツにオールインすることになる環境で育ってきた選手たちに、きちんとした「教育」がなかったのは、過去数十年間スポーツ界をリードしてきた大韓体育会の無関心を端的に示すものである。

教育がなかったのが当然、人権という価値について考えて学ぶ機会は無言生心（有り得ない事）である。選手人権を言う声を聞いてみると大体2つに分けられる。

教育の対象である現場の指導者と選手たちは全体的に先進教育には賛成だが、過去に協会や連盟でも繰り返し指摘してきたコミュニケーションの不足を指摘する。

なぜ現場の声を反映しようとししないのか？ということだ。おそらく指導者の現場での困難についての理解不足、特に、おそらく指導者の多くを占めるコーチの経済的困難と身分の不安に伴う教育の参加度低下な

どを挙げている。

一方、教育の主体である協会や学校は指導者、選手の参加意識の欠如と教育のための本能的？抵抗を指摘する。

●指導者、選手たちの目の高さで、彼らと常に疎通することを

両方の話を聞いてみると、それなりの理由と根拠があることを垣間見ることができる。

結局、時代の話題である疎通がここでも重要なものであることがわかる。

現在、スポーツ界の使命は簡単明瞭である。

数十年間の温室の中の環境だけを享受して生きてきた指導者と選手たちに別の世界があることを知らせ世界的に進むためには、必ず経なければならない過程があることを「教育」していく事である。

スポーツ界の目の高さではなく、一般社会の目線で彼らと常に疎通し、「教育」を通じてスポーツ界が新たに出会う世界を見せてくれるだろう。

しかし「教育」の究極の目標は、単に体育の再教育と道徳性の向上にとどまってはならない。体育会の

「教育」の一線現場の半減は、単に再教育強制というミクロ的な問題に起因するものではないからである。

今、大多数の指導者が置かれている劣悪な労働環境に応じた自己防衛的であり、生存に向けた苦闘によるものだからである。

1年間の非正規職という最も基本的な指導者の身分上の問題も解決できない現在の状況は、「人権」の必要性について疑心暗鬼を助長したほど現場の指導者たちには切実な問題である。

不確実な未来に震えている指導者が、より安定した環境で学生を導くことができる身分の問題を解決するための努力も「人権」のために並行されなければならない。

●指導者の不安定な身分と将来を心配してくれる政策はどこに？

ここ数年、スポーツ界では注目すべき大きな変化がたくさんあった。

週末リーグ制の施行、クラブチームの活性化、代表選手村移転、生活体育支援の拡大など大きな変化があったが、どこにも指導者の不安定な身分と将来を心配してくれる政策は見られない。

大韓体育会がこのような現場の声に耳を傾けず無視する状況の中で、「人権」と「教育」ということだけを強制することは、最終的に現場の反発と無視だけを引き出すことになる。

結局、時間が経てば再びこのような状況が繰り返される可能性が高いだろう。

●ジャン・バルジャンはなぜ誕生したのか（訳注：フランスの作家ユゴーの小説レ・ミゼラブルの主人公）

学んだ知識を正しく活用できる堅実な土台を築くことが何よりも優先的に必要な課題であることをスポーツ界は分からない？

ジャン・バルジャンが誕生した時代的背景のように今のスポーツ界が置かれた現実も暗鬱この上ない。

誰でも一週間飢えたら生きるために泥棒になる。もちろん他人より多く、または楽に持つために泥棒になったりする。

体育も安定した雇用と所得がない場合は「教育」と「人権」はスローガンにとどまる可能性が高い。

今までそうだったように...

このような切ない現実に置かれた体育の問題点を一緒に悩んで、真の「人権」の解決策を用意していくことを心から期待する。

## 01 ソウル新聞 2019. 3. 3

### 【 スポーツ界初ミートゥー加害者、刑事処罰避けたが人事上の懲戒処分 】

国内スポーツ界初の「ミートゥー」(#Me Too・私も被害者だ) 暴露で加害者に指名された前の体操協会幹部 A 氏が人事上の重い懲戒処分を受けることになりました。A 氏は公訴時効が終わり、刑事処罰はありません。

3 日教育界によると、ソウル教育庁は市内の高校の現職教師として働く A 氏の重い懲戒にしろと学校側に要求しました。これに A さんが反発し再審議を要請したが、教育委員会はこれを受け入れないことに最終決定しました。A さんが働く高校は公立で教育庁の要求を受け入れなければなりません。重懲戒の種類には罷免・解任・降格・停職などがありますが、近いうちに行われる学校懲戒委員会で確定されます。

北朝鮮離脱住民の出身で新体操代表常備軍コーチの李ギョンヒ (48) さんは 2014 年、A 氏からの性的嫌がらせをされたという主張を初めて提起しました。「2011 年から 3 年間体操協会の役員を務めた A 氏から性的暴行を受けた」という内容の嘆願書を大韓体育会に提出したものです。以後 A 氏が幹部の席から退き、監査など懲戒手続きも済ませて事件は一段落されたようでした。

しかし A 氏が 2016 年体操協会副会長に内定され、再び問題が浮上しました。体育会は李さんの嘆願書の内容などをもとに A 氏の選任承認を拒否しました。当時 A 氏は「李さんと恋人関係だった」とし「関連事案に懲戒を受けたわけではないので、欠格事由に該当しない」と主張したといひます。彼は承認拒否が不当だとして体育会を相手に民事訴訟も提起しました。A 氏の態度に怒った李さんはミートゥー運動が熱かった昨年 3 月、放送番組を通じて被害事実を公開告発しました。

昨年 12 月に最高裁判所は A 氏の敗訴を確定しました。体育会の関係者は、「裁判所がある程度セクハラ的事实を認めたものと見られる」とし「高裁でも“李さんが嘆願書を提出する際、恥や刑事処罰の危険性を甘受してまで全く存在していない被害事実を作ったと見るのは難しい”という趣旨の判決を下した」と説明しました。ソウル教育庁はこの判決文の内容等を踏まえ、重懲戒決定をしました。

ただし、A 氏は刑事罰は受けていません。検察が、公訴時効が過ぎたとか証拠が不十分であるなどの理由を挙げて無嫌疑と結論づけました。ソウル教育庁の関係者は「時効などで刑事処罰を受けなくても国家公務員法に基づいて行政処罰できる」と説明しました。

一方、A 氏が勤務する学校側は「私たちは上部機関である教育庁の決定に従う立場」とし「重懲戒決定が下されるまで、A 氏はこれまで通り勤務する予定」と明らかにしました。

\*原文出所

[http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20190304012021&wlog\\_tag3=daum](http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20190304012021&wlog_tag3=daum)

## 02 ソウル経済 2019. 02. 28

### 【 金ゴヌ・金イエジン太極マーク剥奪、次シーズンも太極マーク無しかも 】

鎮川選手村の女性宿泊施設に無断で出入りしたショートトラック男子代表の金ゴヌ (21・韓国体育大) と、これを助けた女子代表の金イエジン (20・韓国体育大) が選手村退村命令を受けました。彼らは代表資格も停止されてショートトラック世界選手権も参加することができなくなりました。

大韓スケート競技連盟管理委員会の関係者は 28 日、「金ゴヌと金イエジンが大韓体育会からそれぞれ入村

3ヶ月と1ヶ月禁止の懲戒を受けた」とし「退村命令を受けると代表資格も停止されるだけに、ショートトラック代表チームの資格も保持できない」と伝えました。

金ゴヌと金イェジンは3月8日ブルガリアのソフィアで開かれる2019ショートトラック世界選手権大会に出場することができなくなりました。金ゴヌは3月2日に開幕する2019クラスノヤルスク冬季ユニバーシアード大会にも参加する予定でしたが、今回の事件で霧散しました。

スケート連盟は金ゴヌと金イェジンの代わりに次順位の選手である朴チウォン（檀国大）と崔ジヒョン（城南市役所）を世界選手権に身代わり出場させます。

金ゴヌは24日、男子選手の出入りが禁止された女子選手宿舎棟に無断で入って摘発されました。金イェジンは彼が女性宿泊施設に入ることができるよう助けました。金ゴヌは女性宿泊施設に入った後、エレベーターで移動している間、他の種目の女子選手に発覚し宿泊施設を抜け出したことが知られました。金ゴヌを目撃した選手が選手村にこの事実を知らせ、体育会はCCTVを確認の結果、女性の宿泊施設に入る金ゴヌの姿を確認した後、退村を命じ、入村3ヶ月禁止の懲戒を下しました。

金ゴヌは2015年高校生の身分で泰陵選手村から外泊に出て、春川で開かれた全国大会に訪問した後で飲酒をした事実が明らかになり、代表資格一時停止の懲戒を受けました。スケート連盟関係者は「金ゴヌが冬季体育大会参加後、風邪の症状を見せた金イェジンに風邪薬を渡してもらおうと女性宿泊施設に入ったという陳述をしたと聞いている」とし「金イェジンは金ゴヌが女性宿泊施設に入ることができるよう出入証を渡した」と説明しました。

彼らは今回の懲戒で、まかり間違えれば次のシーズン代表選抜戦も参加することができなくなります。スケート連盟は二人の選手の懲戒を議論するスポーツ公正委員会を3月初めに開いて処罰を決定する予定です。2019-2020シーズンのショートトラック国家代表選抜第1戦は4月3～4日に開かれ、二人の選手が1ヶ月以上の資格停止処分を受ければ選抜に参加することができません。

\*原文出所

<https://www.sedaily.com/NewsView/1VFHLLXXFNT>

### 03 東亜日報 2019.3.5

#### 【 柔道選手シン・ユヨン性的暴行の疑いで前コーチ拘束収監 】

前柔道女性代表常備軍出身のシン・ユヨン氏（24）を性暴行した疑いを受けている元コーチの孫某氏（35）が4日、拘束されました。全州地方裁判所群山支院ジャン・ソンジン部長判事はこの日、令状実質審査で「逃亡する懸念があり証拠隠滅の恐れがある」と孫氏の拘束令状を発しました。孫氏は令状が発行されて群山刑務所に収監されるために去る前に「容疑を認めるか」という取材陣の質問には答えないまま護送車に乗りました。

この日の令状実質審査で孫氏はシンさんに強制的に口を合わせた容疑は認めましたが、性的暴行については引き続き否定したことが分かりました。孫氏は先に二度の検察の調査でも、「(シンさんと) 交際の間であった」と主張したそうです。

検察によると孫氏は2011年当時高校生だった弟子シンさんを転地トレーニング地で性暴行した疑いを受けています。また、性的暴行が起こる2ヶ月前、強制的にシンさんと口を合わせた疑いも受けています。

シンさんは今年1月に彼女のソーシャルネットワークサービス（SNS）とメディアのインタビューを通じて「高校時代の2011年から5年間、孫氏に20回性暴行された」と主張しました。先立って昨年3月にシンさんは孫氏を性暴行などの疑いでソウル方背（バンベ）警察署に告訴しました。

\*原文出所

<http://news.donga.com/3/all/20190305/94389509/1>

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net)

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jr1fep@gmail.com](mailto:jr1fep@gmail.com)